

性格形成に於ける一つの問題

町 田 恭 三

一、調査の意図

人間の性格は厳密に言えば固定的なものではなく、流動的で、その時々の生活を通して形成されて行くものである。であるから、例えば幼時に内向的の人であつても、それではその人は一生を通じて最後迄内向的であるかというに、決してそういうものではなく、時と所とを通して、即ちどのような時にどのような環境に住まわされたか、どのような生活をさせられたかによつて、幾分かずつでも変化して行くものなのである。

しかし流動的であり、生活を通して変化して行くものだからと言つて、後に性格形成に良い生活環境を与えさえすれば、仮令一時の香しくない生活環境が、已むを得ず与られなければならぬというようなことがあつても、後の性格形成にはそれ程の影響はないというような立論は暴論である。性格の形成は、その前に形成されていくものを基にして行われて行くのであつて、前に形成されていたものとは無關係に、全く新しく形成されて行くものではない。

勿論一時は性格形成上マイナスに作用した環境要因が、かえつてその後の性格形成にはプラスに作用する、ということもないわけではないが、それは必ずしも一般的なことではない。そこで我々は常に、どのような環境要因がどのような性格を形成して行くか、ということに重大な関心を持つて、特に子供達が好ましい性格を形成するために、好ましいよい環境を常に提供してやるように努力して行かなければならない。

人間の性格が後天的に形成されて行くものとしたならば、子供達の性格だけを考へてみる場合、彼等の良い性格形成に關与するものは学校教育だけではない。況してや学校のカリキュラムに盛られているものだけではない。なる程、円満な人格の育成ということを目指して、教科教材は夫々の学年に配当せられ、学校教育は進められては行く。しかしそれは教師を通してする学校教育が、子供達の円満な人格の育成に重大な貢献をするに違いない、と考へられているだけのことであつて、それだけによつて悪い性格を打ち破り、良い人格が育成せられて行くものでもなければ、時によつては他の環境条件に対して、それがどれだけの貢献をす

るものであるか、果して重大な貢献をしているものであるかどうか、具体的な事例に遭遇した場合、小首を傾げざるを得ない場合もまゝあるのである。

学校の教科の勉強は、学校に於けると家庭に於けるとを問わず、一般に重要なことと考えられてもいるし、又隨にそれは重要なことでもある。しかし円満な人格の育成という観点から之を眺めた場合、勉強以外の諸経験に対して、之はどれだけの貢献をしているものだろうか。学問的知識は、教科の勉強を通して習得するところが非常に多いであろう。子供によつては、それのみによつて得られている、と言つても過言ではないかもしれない。しかし人格全体となつたらどうなのだろうか。我々は学問的な知識を豊富に持ちながら、偏狭な人間になつてしまつたり、或はそのことによつて一層社会適応性を失つてしまつた人間のことを数多く知つている。一体子供達の性格形成にはどのようなことが、どのように関与するものなのだろうか。性格形成にとつて良い環境とはどのような刺戟の提供される環境のことをいうのだろうか。そのことを特に勉強との関連に於て追究するというこの試みが、世の父兄・教師達に何等かの参考を提供するということにならば幸いである。

二、対象と方法

何がどのような影響を我が性格の上に及ぼしたか、又その時期は、というような高度な反省に基いての資料を得ようとした場合、心理学的な知識も持ち、内省力も十分に備つた大学生を調査

対象にすることが出来たら、甚だ便利である。それで調査の対象を女子大学生とした。対象数は二二八名。

方法は一応質問紙法によることとし、使用した質問紙は、質問紙Aと質問紙Bである。なお質問紙Bは質問紙Aの結果に基いて作製されたものであつて、その選択肢は質問紙Aの(3)の答を分析し、頻数の比較的多かつた事項を選択配列したものである。

三、結果とその解釈

第一表及び第二表は、先ず現在の性格形成に、勉強以外の事項、特にリクレーション等が案外強く関与している、ということを示している。第二表を見ると、なる程学校での教師を媒介とする教科教材の勉強は、性格形成に相当関与している。しかし、その四六%という割合は、私にとつては予想外に低いものであつたし、家庭に於ける勉強に至つては、殆んど他に対して問題にならないような低い数値しか示していない。このことは案外等閑視されている勉強以外のことが、実は勉強以上に将来の人格形成にとつては重要視されなければならぬことを示して

(第一表) 現在の性格形成にリクレーションはどれだけ影響したと思うか

影響の度合	%
非常に影響したと思う	30.34
少しは影響したと思う	64.10
全く影響してないと思う	0.85
わからない	4.70
計	99.99

いるように思う。又第二に今日道徳科新設について甲論乙駁されてい

(第二表) 性格形成に影響する割合%

	学 校	家 庭	計*
勉 強	46.18	11.17	28.67
お 使 い	0.89	8.93	4.90
リクリエーション	37.66	48.04	42.96
そ の 他	15.07	31.84	23.45
計	100.00	99.98	99.98

(註) 1. 表中の数字、例えば46.18は現在の性格形成に最も影響したものは、学校での勉強に関するものであつたと答えた者が46.18%あつたということを示す
2.* 学校・家庭を通じて性格形成に影響した各項目毎の合計の割合を示す

今迄通り
のやり方でよいという意見がある。今回の私の調査の中ではことさらに道徳性のことは問題とはされてないし、であるからこの調査の結果からこの意見に直に批判を加えることは出来ないが、しかし何れにしても性格に迄も届くような、特に良い性格の形成に強く関与するような教育が教科教材の勉強を通しては、今迄は余り行われてはいなかつた、ということを示しているように思う。
第三表は現在の性格形成に当つて、最も影響的であつたと考えられる時期を示したものである。この表によると、性格形成に当つて最も影響を受ける時期は、家庭でも学校でも中学校及び高等学校時代で、そのうちでも特に高等学校時代のようにである。この理由は、中学校及び高等学校時代は感受性が、以前の時期に比べて鋭敏になつていゝることゝ、もう一つそれは現在に最も近

(第三表) 性格形成に影響を受けた時代%

	学 校	家 庭	計*
小 学 校 時 代	7.92	14.28	11.10
中 学 校 時 代	38.76	33.49	36.22
高 等 学 校 時 代	41.85	40.88	41.36
大 学 時 代	11.45	11.33	11.30
計	99.98	99.98	99.98

(註) 1. 表中の数字、例えば7.92は小学校時代の学校に於けるものが、現在の性格形成に最も影響的であつた、と答えた者が7.92%いたということの意味する
2.* 学校・家庭を通じて各学校時代の影響の合計の割合を示す。

響を及ぼし、誰をも或る一定の性格にして行くというものではない。そこで第二表の勉強以下影響を与える事項の夫々に属する事柄によつて、性格的にどのような影響を与えられるものがどのくらいあるか、その影響を与えられるものゝ割合を調べようとしたのが質問紙Bである。第四表以下は質問紙Bの結果を示したものである。
第四表は入学試験ということを中心として進められて来た高等学校迄の勉強が、どのような影響を、どれくらいの人に与えたかを表にしたものである。私は勉強からの影響として最初質問紙Aの(3)の中には、ある教科教材からの影響も少しはあるだろうと考

接した段階である、ということができる。勉強やその他の環境的要因が性格形成の上にも影響を及ぼすといつても、誰にも一様の影

(第四表) 高等学校時代迄の受験勉強の影響

	影 響	%	計 %
良 い 影 響	1. 依頼心をなくさせ、自主性と積極性を増して、自分の力だけに頼って行動しようとする性格に変えた	7.66	36.48
	2. 意志力と忍耐力とを養ってくれた	19.06	
	3. 強い競争心が、少々無理をしてでも絶対に負けまいという負けず嫌いにさせた	5.42	
	4. 進学という目的を持っていたので毎日が楽しく、お蔭で性格も明朗となり、その目的達成のためによく頑張るようになった	4.29	
	5. その他	0.05	
悪 い 影 響	6. 試験の成績が下つたことから、強い劣等感を感じ、以後自信はなくなり、孤独、色々なことに懐疑的となつた	5.98	59.60
	7. 試験とか勉強とかいうことにのみこだわつた巾の狭い人間になつた	9.34	
	8. 常に不安な氣持を内に藏し、無口、憂鬱、神経質となつた	8.59	
	9. 利己的で何事も自分本位にしか考えないようになつた	4.11	
	10. 神経過敏で怒りっぽくなつた	7.66	
	11. 無趣味、且つ融通のきかない人間になつた	8.22	
	12. 家族も自分が孤立して勉強に専心することを好む故、一層孤立孤独となつた	1.68	
	13. 勉強の強制に反抗して、時には厭世的とさえなつた	8.41	
	14. 受験組と就職組に分かれ、友達の範囲が狭まつたことから一層内向的となる	3.55	
	15. その他	2.00	
	16. 影響なし	3.92	3.92
	計	100.00	100.00

(註) 5 及び 15 の内容の主なものは

- 総てのことに計画的となつた
- 豊かな人間性を持つよう努力するようになつた
- 他人と自分を常に比較するようになつた
- 時間的に制約を受けたため積極性がなくなつた

えていた。しかし実際には一つもなく、勉強からの影響として良きにつけ悪しきにつけ思い出されるものは、もつと全体的な入試中心的な勉強そのものだけであつた。それで一応こゝでもそれだけに限つて、それが性格的にはどのような影響を与えたかを調べるために、質問紙 B の第一問を設定したのである。他のものは全く想起の対象とはならない程、少くとも上級進学希望者にとつては、入試中心のあつた勉強だけが頭の中に残つていて、勉強と言われればそのことだけが蘇つて来るのである。

第四表によると、そ

(第五表) 大学の勉強の影響

	影 響	%	計%
良 い 影 響	1. 高等学校迄の勉強は強制されての勉強であるが、大学での勉強は自分の好む学問の勉強であるから、自ら進んで出来、氣持も一層おとらかとなつたようだ	35.31	86.77
	2. 先生に教えられた以上のことをする故、自然視野も広まり、人間的に巾も広くなつて行くように思つ	24.53	
	3. 物事総てを客観的に見るようになった	21.93	
	4. その他	5.00	
悪 い 影 響	5. その他	2.43	2.43
	6. 影響なし	10.78	10.78
	計	99.98	99.98

(註) 4 及び 5 の内容の主なものは

- 自分の当面する総てのことに対して、自分なりの方針を立てるようになった
- 高等学校迄の勉強は強制されての勉強ではあるが、しかしその通りにやつておれば何等の不安もなかつた。しかし大学に入ると急に放り出されたようで不安な氣持が去らない
- 自分の好きなものが出来る反面怠け心が出来る
- 同級生は皆出来るし、学問はむずかしいしで、高等学校の時以上の劣等感を持つ
- 常識がなくなつたような氣がする

の入試中心的な勉強によつて、性格の上に良い影響を受けたというものは、香しくない影響を受けたものに比べて非常に少い。このことは円満な人格の形成は、学校の勉強からのみでは非常に困難であり、人によつては、勉強をすればする程社会性の少い、役に立たない人間になる可能性すらも非常にあることを示している。

第五表は大学の勉強の影響を示したものである。この表で見る如く、大学入学後の勉強の影響は、高等学校迄の勉強の影響に比べて、性格形成上寧ろ香しいものが非常に多い。又見落してならないことは、大学入学後の勉強によつて良い影響を受けたものゝ比率が、高等学校迄の勉強によつて悪い影響を受けたものゝ比率を、大巾に上回っていることである。このことは、選択肢の幾分の相違はあるが、高等学校迄の勉強によつて香しくない影響を受けたものゝ中にも、大学入学後の勉強によつて、良い方向へと引き戻されつゝあるものが相当にあることを物語っている。

第六表は文化財からではなく、文化財を通して生徒の学習指導に当る教師個人からの影響を調べたものである。こゝでは教師個人から良い影響を受けているものと、何等の影響も受けていないものとの比率が同じくらいであることに注目しなくてはならない。影響を

(第六表) 教師の個人的な影響

	影 響	%	計%
良 い 影 響	1. 物の考え方が深くなり、何事もしんみり考えるようになった	26.83	45.78
	2. 几帳面で、計画的となつた	6.49	
	3. 先生の親切な指導で勉強が好きになり、勉強が自分の性格を明るく、強くしてくれた	7.35	
	4. その他	5.11	
悪 い 影 響	5. 皮肉な先生のお蔭で剛情となつた	5.19	8.30
	6. その他	3.11	
	7. 影響なし	45.88	45.88
	計	99.96	99.96

(註) 4及び6の内容の主なものは

- 学校生活に一つの楽しみを見つけて下さつた
- 受持の先生の指導で性格に明るい、そして余裕のあるものを持つようになつた
- 誠実と尊敬ということを教えられた

受けるか受けないかは勿論受ける本人の状態如何にもよるのではあるが、特にこの時代は最も可塑的な時代であり、而も相手は最も教育的な人間像として、尊敬されなければならない教師でもあるだけに、この時代に教師から何等の影響も受けなかつたというのでは、その非力さに今更ながら落胆せざるを得ない。

勉強以外の影響のうち、課外活動として行われるスポーツ及びその他の文化的なクラブ活動の影響を示したのが、第七表及び第八表である。課外に行われる之等の活動は、入試には無関係であるから、どうでもよいものとして、又行うとしても希望者が、教科の学習に差支えが生じない範囲内で行えばよいものとして、十分な指導も行われず、教科の学習に比べてどちらかと言えば軽視され勝ちになつていのではないかと思う。勿論、之等の課外活動には良い点ばかりあつて、悪い点が全くないと言うわけではないが、しかし第四表と第七、八表とを比較した場合、香しくない影響の比率が、両者間で余りにも違い過ぎることに我々は注目させられるのである。知的な向上、高度な知識というものは現代文明社会に処する上に非常に必要なことである。であるから時には強度の勉強ということも勿論意味のあることではあるが、前述の通り決して知力は万能ではないのである。文明の進歩と共に更に複雑化して我々の心中に起つて来る心的緊張を適当に超克し、不断に進展して已まぬ社会と文化に適応し貢献するためには、知力のみでは不可能である。教科以外の色々な活動が、学校に於ける特別教育活動として課外に設けられているのも、特別な

(第七表) スポーツの影響

	影 響	%	計%
良 い 影 響	1. 何事をする場合でも積極性が増加した	7.22	66.24
	2. 好きなことを思う存分する故、体力もつき、性格も明るく朗らかとなつた	17.26	
	3. こせこせ、ぐずぐずしなくなつた	12.85	
	4. 協同精神を練り、社会性を作り、利己的なものから超越させてくれる	17.67	
	5. 忍耐力が出来た	10.04	
	6. その他	1.20	
悪い影 響	7. 運動が下手でかえつてひがみ、劣等感を持つようになった	4.41	4.41
	8. 影響なし	29.31	29.31
	計	99.96	99.96

(第八表) クラブ活動(スポーツを除く)の影響

	影 響	%	計%
良 い 影 響	1. 同じ趣味のものゝ集いに参加して共に語り、共に活動するようになってから、過去になかつた明るさが出来た	15.27	61.26
	2. 同学年のみならず、違つた学年や学校にも友人が出来て毎日が楽しくなつた	19.21	
	3. 視野が広まると共に、強く或る方向へ人間全体が方向づけられて行く	13.30	
	4. 気分も柔らぎ落付きも出来て来た	15.27	
	5. 人前でも意見が述べられるようになった	5.91	
	6. その他	2.30	
悪い影 響	7. はつきりした性格となつた反面、好悪の感情もはげしくなつた	6.89	10.49
	8. 文藝部の活動は自分を消極的・内省的な人間にした	0.49	
	9. その他	3.11	
	10. 影響なし	18.22	18.22
	計	99.97	99.97

(註) 6及び9の内容の主なものは

○狭い学問に忠実な、俗に云う“学生”であるべきでないと考えようになつた

○どのクラブにも無趣味のため入り得ず、そのため劣等感を持つようになつた

(第九表) 読書の影響

	影 響	%	計 %
良 い 影 響	1. 物の見方・考え方・人としての在り方・生きる道を教えてくれた	32.50	94.07
	2. 主人公の言葉・性格に強く影響され、行動もそのようになつて来たように思う	6.13	
	3. 思考態度や思考力が出来て来て、物事を考える場合表面的にのみ考えないで、その奥底にまでも立ち入つて考えるようになった	28.63	
	4. 深く追究しようとする追究的欲求や態度が出来て来た	17.27	
	5. そのために人ともかなりよく話せるようになったし、又明るく活潑にもなつた	7.04	
	6. 或る方向(例えば社会主義とか共産主義とか)へ目が開き、その方向へ自分の性格も形作られて行く	2.50	
悪い影 響	7. 一人で物を考えたり、空想したりして、外で遊ぶこと、人と交ることを好まぬようになった。	5.90	5.90
	計	99.97	99.97

教育的配慮を期待してのことなのであるから、その点を再認識して、父兄も教師も子供達の口満な人格の形成ということに一層の努力を払わなければならない。何れにしろスポーツとか、課外に行われるクラブ活動からは、案外性格形成に寄与する大きなもの、而

もそれは勉強等からはとても期待し得ないような量と質のものが得られるのであるから、一層之を効果あらしめるように、そして又効果的に利用するようにしなければならない。

読書の影響を示したのが第九表である。余暇に読む読書の影響は、特に中学校後期から高等学校時代の子供達に、時によつては親・教師以上の深刻な影響を与えるものであるが、そのことについて一体どれだけの人が知っているであろうか。

この時期の子供達に特に読書が影響を与える理由として、我々は幾つかの理由を挙げる事が出来る。

読書は親・教師の語るより以上のものを、又時によつては親・教師の語り得ないものを、人生問題を例にとつてみても、例えば予想もしていなかつた全く別種の人生をさえも語り聞かしてくれること。

特に高等学校時代の強い内向化は、その結果として生じた情緒的な極度の不安定感を回復させるために、人よりも寧ろ書物の上にも何ものかを求めようとする傾向が強いこと。

かくして何れの理由によつても、この時期の読書への欲求は、それは前述のスポーツの場合も、その他のクラブ活動の場合も同様なのであるが、教科の勉強等とは違つて、自らの強い興味に基いて自然に発生したものであること。

私は最初内向的傾向の強い時期の読書は、子供達を一層内向化させ、消極的ならせるばかりなのではないかと心配した。しかし調査の結果ではそのような傾向に陥つたというものは、僅かに六%ばかりしか発見することが出来ず、九六%のものには、寧ろ非

常に良い影響が及ぼされている、ということを見出したのである。しかしこの調査の対象は女子大生であるから、この調査の結果を直に一般的なものである、と考えるのには幾分かの困難があるかもしれない。それにしてもこの第九表の数字は少くともそうなる可能性を示しているものであるから、父兄も教師も学校図書館や学級文庫の充実とか、読書指導とかいうようなことに力を致して、読書の良い効果を現わさせるように努力して行かなければならないと思う。

第十表から第十二表迄は学校の種類からの影響を見ようとしたもので、異つた種類の学校間、例えば宗教を背景とした私立の学校と普通の学校、普通の学校でも大学と、高等学校以下の学校間には、夫々何か異つた、他の学校には余り見られない、性格面へ働きかけるものがあるのではないか、ということ予想したのである。

宗教関係の学校に学んで、性格面に良い影響を受けたというものが四三%というのとは角として、何等の影響も受けなかつたというものが、同じく四二%もあるということは一寸以外である。その%が高いのが良いのかどうか簡単には言えないが、私は特殊な学校には特殊な雰囲気横溢しているであろうから、その特殊な雰囲気のために強く影響を受けた、というものが相当いるのではないかと予想していた。特に宗教を背景とした学校の場合には、そのような傾向が一層強く見られることであろうと予想していたのであるが、そのような学校に学んだものうち四二%のものには、学校から来る特殊な影響は全く見られな

(第十表) 学校の持つ特性の影響 (宗教関係学校の場合)

	影 響	%	計%
良い影響	1. 神佛への祈りを通して同胞への愛も芽ばえ、性格も明るくなつた	23.68	43.65
	2. その他	19.97	
悪い影響	3. 教義に対する批判が物事に対する懐疑的・批判的態度を生む	13.15	14.23
	4. その他	1.08	
	5. 影響なし	42.10	42.10
	計	99.98	99.98

(註) 2 及び 4 の内容の主なものは

- キリスト教を知つたことは本当によかつたと思う。巾の広い人間になつた
- 心の落付きが得られた
- 優しい心が育成された
- 他人をどんな場合でも憎むことが出来なくなつた
- 神に見守られている自分を発見し、神にすがろうとするようになつた
- 神を信ずることによつて一層問題が複雑となり、内面の葛藤が多くなつた

(第十一表) 学校の持つ特性の影響 (大学の場合)

	影 響	%	計%
良い影響	1. 結局頼りになるのは自分だけだということを知るようになり、自分に積極性を増加させると共に、或る確定した個人に形作つてくれつゝある	76.95	85.33
	2. その他	8.38	
悪い影響	3. その他	2.21	2.21
	4. 影響なし	12.44	12.44
	計	99.98	99.98

(註) 2 及び 3 の内容の主なものは

- 知識を得ることによつて無謀さが減じつゝあるようだ
- 時間的に余裕が出来、物事を深く究明するようになった
- 講義、学友その他学校生活を通じて視野の広い人間的に巾の広い、個性的な人間になった
- 現実的な人間になった

(第十二表) 学校の特性の影響 (高等学校以下の場合)

	影 響	%	計%
良い影響	1. 共学は男子に負けるものかという氣概を起こさせた	46.70	48.25
	2. その他	1.55	
悪い影響	3. 男子の多い共学は自分を孤独にし、劣等感と自己嫌惡とを起こさせた	3.55	18.75
	4. その他	15.20	
	5. 影響なし	32.99	32.99
	計	99.99	99.99

(註) 2 及び 4 の内容の主なものは

- 偏見をなくし、のびのびとした人間を作る
- 女子の結びつきが強くなつた
- クラスの中が明るく朗らかになつた
- 氣軽な氣持で交際が出来て、学校生活が楽しい
- 男子を特に意識しないようになった
- 男女協力の精神が出来た
- 男子の多い共学は自分を女として見てくれず、同等に扱われ、自由に共同して勉強出来、劣等感も抱かず、この時の影響がその後の性格を明るく積極的にした

(第十三表) 友人の影響

	影 響	%	計%
良い影響	1. 友人によつて自分の考え方、思想も深化され、性格の上にも大きな影響を受けた	52.29	77.04
	2. 友人と楽しく語り合うことによつて家での陰氣も消失	21.37	
	3. その他	3.38	
悪い影響	4. 友人間の氣まずいことが一層自分を陰氣にさせてしまった	5.34	8.44
	5. その他	3.10	
	6. 影響なし	14.50	14.50
	計	99.98	99.98

(註) 3及び5の内容の主なものは

- 自分の内向性を彼等が助け、知らず知らずのうちに外向的に導いてくれた
- 友人の性質が自分の性質の中に或る程度入つて来るようになった
- 軽蔑することを覚えた
- 人間の利己的な面をいやという程味つた
- 無責任、非礼を友人の中に見付けて、自分はそのようになるまいと心掛けるようになった

つた。
 高等学校以下の学校の、その学校だけが持つ特殊な雰囲気からの影響を調べるのに、予備調査の結果から共学ということだけに限るようになってしまつたが、之は再考の必要があるであろう。しかし共学だけに限つて今考えてみると、共学によつて悪い影響を受けたものに対して、良い影響を受けたものは圧倒的に多い。かくして共学に対しては色々な面から色々な意見があるようであるが、第十二表に現れた限りに於ては良結果を収めているようである。

第十三表は友人の影響を示したものである。友人の影響、特に高等学校以後に交る友人の影響には案外大きなものがあり、時によるとその後の人生の進路がそれによつて決定される、というようなくともよくあることなのである。第六表と第十三表とを比較してみると、思想を深化させるという点では、友人からの影響は教師からの影響を大分上回つている。このような調査結果からも、子供の性格形成の上に果たされる友人の重要性について、改めて認識する必要があると思う。「陰氣の消失」ということも、性格形成に直接関係を持つていとも言えないが、所謂感情の癡りを解くカタルシスとして、間接的には非常に重要な意義を持つていと思う。「物言わざるは腹脹るゝわざ」と言うが、内向化の結果として溜つた腹中のものを、最もよく吐き出させ、腹中を浄化させてくれるものは、この時期には氣の合つた友人朋輩が第一なのである。

女性であるから、男子に比べて何かと家事の手伝いをするこ

も多いであろうが、この家事の手伝いということが女性の性格面へはどんな影響を及ぼすであろうか。お嬢さん育ちで何も家の手伝いをさせられなかつたものと、小さな時から炊事・掃除・弟妹の世話と家事の手伝いをさせられたものとは、仕事が出来る出来ないというだけでなく、性格的にも随分違いがあるように思う。

第十四表で見る如く、家事の手伝いが性格面に及ぼす影響としては、それをしない時にはなか／＼容易には得られそうもないような良い特性が、家事の手伝いによつて得られている。勿論家事の手伝いの影響調査としては、質問紙に挙げられた質問項目のみでは不十分ではあるが、この調査による限りでは、家事の手伝いによる香しくない影響というのは見られなかつた。

勉強のために家事の手伝いをする暇がないとか、日曜日でも家事の手伝いをさせず、唯々勉強に専念させるとかいうことは、よく見聞することであるが、好ましい性格形成のために与えられた折角のチャンスが逸せられてしまつていくようで、惜しいことのように思う。勉強のために全く家事の手伝いをさせないというのではなくて、勉強を十分やらせると共に、適度に又家事の手伝いもさせるということは、親の手助けになるというだけに止まらず、実にそれによつて実際に役に立つ、しつかりした、好ましい性格にも、又子供達を作り上げて行くことになるのである。どのような点で、どのくらいの貢献をするかは第十四表に示す通りである。

舞踊・絵・書・ピアノその他のお稽古事も、性格形成に何等かの影響を及ぼすであろう。第十五表はそのお稽古事の性格面への影響を示したものである。この項目への答は数が少く、他の項目

(第十四表) 家事の手伝いの影響

	影 響	%	計 %
良 い 影 響	1. 家事の手伝いをしている間に、毎日の仕事をする場合の敏捷性と計画性が身について来たようだ	26.42	76.77
	2. 何事によらず仕事をするということが苦にならなくなつて来た	25.00	
	3. 次第に庶民的となり、近所の人やら大勢の人とも気軽に話し合えるようになった	9.64	
	4. 従順性を増し、我を張らないようになった	12.14	
	5. その他	3.57	
	6. 影響なし	23.21	23.21
	計	99.98	99.98

- (註) 1. 悪い影響と考えられるものは一つも書かれなかつた
 2. 5の内容の主なものは
 ○女性の役割の重要性の認識
 ○経済観念が増した

(第十五表) 舞踊・絵・書・ピアノその他お稽古事の影響

	影 響	%	計 %
良い影響	1. 話題も豊富になり、人との話し合いも面白くなつて来た	14.84	64.05
	2. 気分が柔らぐと共に明るくなつて来た	43.75	
	3. その他	5.46	
悪い影響	4. そのことに専心すればする程、自分一人であることの方が楽しくなつて来た	16.40	18.75
	5. その他	2.35	
	6. 影響なし	17.18	17.18
	計	99.98	99.98

(註) 3 及び 5 の内容の主なものは

- 好きなものがあるということが楽しく感ぜられる
- 人間性を豊かにする
- 別の社会に住む人とも知り合い、社会を見る目が広がった
- 自分の努力によつて得た心の糧を、じつと自分の中に止めて置きたい氣持が強い

への答の半数以下であつたが、参考迄に示してみると、その結果はお稽古事の種類によつても多少の違いは生じて来るのであろうが、大体どれも明るい、好ましい性格を作ることへの影響の方が多きである。しかしこの表でも示されている通り、孤独を好み、空想へ逃避する、ということが習慣化する危険もないわけではないのであるから、その点については十分に注意をしなければならぬ。

家庭内に於ける色々なことも、性格形成に非常に重要な要素となつて行くものであることは既述の通りであるが、そのうちの一つの重要な問題として、次に家族間の談話・談笑というものを取り上げてみた。その結果は第十六表に示す通りである。

家庭内でどのような談話が、どのようにして行われるかは家庭内の雰囲気にもよるものであるが、両者は全く一致するとも言ひ切れない。そこで家庭内に於て、性格形成の大きな要素となるであろうと思われる現象的なこと、形式的なことの一つとして、他の項目と並び、「談話」というものを問題にしてみたのである。

兄弟からの影響というようなのは、談話を通してのみならず、常に家庭内に一緒にいるのであるから、色々なことを通して行われるわけであるが、考え方に方向を与え、思想を深化させるというような点では、やはり愛情こめて弟妹に語り聞かす兄弟の談話が、一番大きな力を持つていることであろう。兄弟間では冗談は言い合つても、真面目に一つの問題について話し合いをするということとはなかなか出来難いことであるが、互に愛情と尊敬の念を以てそれを行ひ得るように、親は家庭の雰囲気を作り上げて

(第十六表) 家族間に於ける談話の影響

	影 響	%	計%
良い影響	1. 兄や姉との話し合いが、自分の考え方、思想を深化させ、自分の性格の上にも大きな影響を與えた	29.88	81.67
	2. 特に食事の時などの家族一同での談笑は、自分の性格を明るく開放的にさせるのに役立つ	47.41	
	3. その他	4.38	
	4. 影響なし	18.32	18.32
	計	99.99	99.99

(註) 1. 悪い影響は見られなかつた

2. 3の内容の主なものは

○自己をはつきり主張するようになった

行かなければいけない。兄姉からの影響は、親よりも年齢的には接近しているし、その他何かと親近性があるため、心の底に喰い入つて行われ易いのである。

お使いの影響の結果を示したのが第十七表である。こゝでお使いというのは家庭・学校両方に於けるお使いを意味するようになったのであるが、第十七表を見ると影響なしというものが四六%に對し、良い影響を受けているものが四七%いる。親や教師がいくら良い影

(第十七表) お 使 い の 影 響

	影 響	%	計%
良い影響	1. お使いでの失敗が何事によらず自分をその後慎重深いものにさせた	38.66	47.47
	2. 御用がよく出来て褒められてからは、一層行動に於ける積極性と、人前でも物おじしない性格になつたように思う	6.66	
	3. その他	2.15	
悪い影響	4. その他	5.85	5.85
	5. 影響なし	46.66	46.66
	計	99.98	99.98

(註) 3及び4の内容の主なものは

○食べ物の値段や質量を知り、実際的な常識家となる

○次第に引込思案でなくなつて來た

○隣近所の人ともお使いの時などを通じてよく話をするようになった

○余り人を使うのは考えものだというようになった

○何時も満足なお使いが出来ないのが非常に氣になつて來た

○上手に買物しようとする氣構えが常に備つて來る

響を受けさせようと努力しても、良い影響はおろか何等の影響も受けないという場合も出て来るではあるが、親の心掛け如何はやはり子供には大きく響くものである。それであるから子供のお使いなどということも、唯それによつて親が助かるだけのこと、考えないで、お使いの第一義的な意義は、寧ろよい性格形成のため、よい手段であると考えるくらいにして、その機会を利用したらい。第十七表で示される程のよい効果が得られるのだから、お使いを唯お使いだけに終らせてしまふということは惜しいことである。

四、結 論

人間の性格は、その人間に迫り来る総ゆる機会を通じて作り上げられて行くものであつて、よい性格の形成に関与するものも決して学校の教科の学習や、教師の教室に於ける教えというものゝみではない。勿論教科の学習や教師の教えも重要な一つにはなるであらうけれども、飽く迄もそれは一つであるに過ぎないのであつて、案外見過ごされているものゝ中に、教科の学習や教師の教え以上に重要な貢献をするものがあるのである。勉強や教えは知識を習得させるためにはこれ以上のものはない。しかしよい性格の形成という観点から之を眺めた場合、残念ながらそれには又歓迎すべからざる幾多の欠陥も、その必然的な結果として生じていることを発見せざるを得ないのである。我々の従事する教育は円満な良い性格の持主をこそ目的とすれ、単なる智者は我々の目的とするところではない。教科の勉強を通して得られた学問的知識

は、あるいは社会の進歩と文化の向上のための中心的な力となるものであるかもしれない。我々はかくして決して勉強の持つ意義を軽く視るものではないが、社会適応性を喪失し、神経症的傾向をさえ有するようになったものゝ集りが、社会の進歩と文化の向上への寄与をするとも考えない。強度に勉強すればする程、一層勉強からの性格面への欠陥は露わになつて来るものである。このことを念頭に置いて、一面勉強は強調しつつも、他面総ゆる機会を利用して円満な良い性格の持主たらしめるべく努力して行かなければならない。スポーツも、クラブ活動も、読書も、家事の手伝いも、お稽古事も、お使いも、子供達のよい性格形成のために与えられた良い機会なのである。決して勉強のみが万能ではない。子供達の良い性格形成のための良い環境とは、良い性格形成のために、色々な面から長短相補う適度な刺戟の行われる環境であり、換言すれば、適度な刺戟を色々と準備した環境のことを言うのである。

(註)

質問紙 A

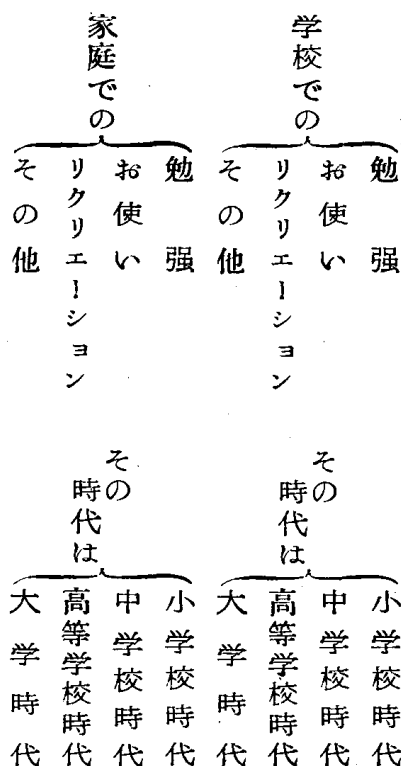
(一)、あなたの現在の性格の形成に、あなたの行つて来たリクリエーションがどれだけ影響したと思つていますか。○をつけて下さい。リクリエーションとは本務以外に余暇に行われる活動で、自ら進んで本当に愉快に行われる活動の総てを意味します。

非常に影響したと思う

少しは影響したと思う

全く影響していないと思う
わからない

(二)、あなたの現在の性格形成に最も影響したと思われる事柄は、次のうちではどれですか。○をつけて下さい。



(三)、(二)のことを具体的に書き、更にその結果自分の性格はどうなったかということについて書いて下さい。

質問紙 B

次に掲げた「高校時代迄の受験勉強」以下十三個の項目が、あなたの性格の上にもどのような影響を與えたか、夫々の項目の次に並べた答のうちから、あなたに当てはまるもの、上に○をつけて下さい。もし何等の影響もなかつたという場合には「影響なし」の上に○をつけて下さい。又答に書いてある以外の影響が見られた場合は、「その他」に簡単に書いて下さい。尚○はいくつつけてもよろしい。

一、高校時代迄の受験勉強の影響

1、依頼心をなくさせ、自主性と積極性を増して、自分の力

だけに頼って行動しようとする性格に変えた

2、意志力と忍耐力とを養ってくれた

3、強い競争心が、少々無理をしてでも絶対に負けないという負けず嫌いにさせた

4、進学という目的を持つていたので毎日が楽しく、お蔭で性格も明朗となり、その目的達成のためによく頑張るようになった

5、試験の成績が下つたことから、強い劣等感を感じ、以後自信はなくなり、孤独、いろ／＼なことに懐疑的とさえなつた

6、試験とか勉強とかいうことにのみこだわつた巾の狭い人間になつた

7、常に不安な氣持を内に藏し無口、憂鬱、神経質となつた

8、利己的で何事も自分本位にしか考えないようになつた

9、神経過敏で怒りつぼくなつた

10、無趣味且つ融通のきかない人間になつた

11、家族も自分が孤立して勉強に専心することを好む故、一層孤立孤独となつた

12、勉強の強制に反抗して、時には厭世的とさえなつた

13、受験組と就職組に分れ、友達の範囲が狭まつたことから一層内向的となつた

14、その他

15、影響なし

二、大学の勉強の影響

1、高校迄の勉強は強制されての勉強であるが、大学での勉強は自分の好む学問の勉強であるから自ら進んで出来、気持ちも一層おもしろかとなったようだ

2、先生に教えられた以上のことをする故、自然視野も広まり、人間的に巾も広くなつて行くように思う

3、物事凡てを客観的に見るようになった

4、その他

5、影響なし

三、教師の個人的な影響

1、物の考え方が深くなり、何事もしんみり考えるようになった

2、几帳面で計画的となった

3、皮肉な先生のお蔭で剛情となった

4、先生の親切な指導で勉強が好きになり、勉強が自分の性格を明るく強くしてくれた

5、その他

6、影響なし

四、スポーツの影響

1、何事をする場合でも積極性が増加した

2、好きなことを思う存分する故、体力もつき性格も明るく朗らかとなった

3、こせく、ぐずくしなくなつた

4、協同精神を練り社会性を作り、利己的なものから超越させてくれる

5、忍耐力が出来た

6、運動が下手でかえつてひがみや劣等感を強く持つようになった

7、その他

8、影響なし

五、クラブ活動（スポーツを除く）

1、同じ趣味の者の集いに参加して共に語り、共に活動するようになったから、過去になかつた明るさが出来た

2、同年のみならず、違つた学年や学校にも友人が出来て毎日楽しくなつた

3、視野が広まると共に、強く或る方向へ人間全体が方向づけられて行く

4、気分も柔らか落付きも出来て来た

5、人前でも意見が述べられるようになった

6、はつきりした性格となつた反面、好悪の感情も激しくなつた

7、文藝部の活動は自分を消極的・内省的な人間にした

8、その他

9、影響なし

六、読書の影響

1、物の見方・考え方・人としての在り方・生きる道を教えてくれた

2、主人公の言葉、性格に強く影響され、行動もそのようになって来たように思う

3、思考態度や思考力が出来て来て、物事を考える場合表面的

にのみ考えない、その奥底迄も立入つて考えるようになった

4、深く追究しようとする追究的欲求や態度が出来て来た

5、そのために人ともかなりよく話せるようになったし、又明るく活潑にもなった

6、ある方向（例えば社会主義とか共産主義とか）へ目が開き、その方向へ自分の性格も形作られて行く

7、一人で物を考えたり、空想したりして、外で遊ぶこと、人と交ることを好まぬようになった

七、学校の持つ特性の影響

a、キリスト敎学校

1、神への祈りを通して同胞への愛も芽ばえ、性格も明るくなつた

2、敎義に対する批判が物事に対する懐疑的・批判的態度を生む

3、その他

4、影響なし

b、大 学

1、結局頼りになるのは自分だけだということを知るようになり、自分に積極性を増加させると共に、ある確定した個人に形作つてくれつゝある

2、其 他

3、影響なし

c、高校以下の学校

1、男子の多い共学は自分を孤独にし、劣等感と自己嫌惡とを起こさせた

2、共学は男子に負けるものかという氣概をおこさせた

3、その他

4、影響なし

八、友人の影響

1、友人によつて自分の考え方、思想も深化され、性格の上にも大きな影響を受けた

2、友人と楽しく語り合うことによつて家での陰氣も消失

3、友人間の氣まづいことが一層自分を陰氣にさせてしまつた

4、その他

5、影響なし

九、家事の手傳いの影響

1、家事の手傳いをしてるうちに、毎日の仕事をする場合の敏捷性と計画性が身につけて来たようだ

2、何事によらず仕事をするとということが次第に苦にならなくなつて来た

3、次第に庶民的となり、近所の人やら大勢の人とも氣輕に話し合えるようになって来た

4、従順性を増し我を張らないようになった

5、その他

6、影響なし

一〇、舞踊、絵、ピアノ其他お稽古ごとの影響

1、話題も豊富になり、人との話し合いも面白くなつて来た

2、気分が柔らぐと共に明るくなつて来た
3、そのことに専心すればする程、自分一人でいることの方が
楽しくなつて来た

4、その他

5、影響なし

一一、談話、討論の影響（家族間に於けるものだけ）

1、兄や姉との話し合いが自分の考え方・思想を深化させ、自
分の性格の上にも大きな影響を與えた

2、特に食事の時などの家族一同での談笑は、自分の性格を明
るく開放的にさせるのに役立つた

3、その他

4、影響なし

一二、お使用の影響

1、お使用での失敗が、何事によらず自分をその後慎重深いも
のにさせた

2、御用が良く出来て褒められてからは、一層行動に於ける積
極性と、人前でも物おじしない性格になつたように思う

3、その他

4、影響なし